

# 国語科 学習指導案

指導者 島 山 陽

1 日 時 平成25年10月10日(木) 5校時 3年B組教室

2 学 級 3年B組 男子18名 女子20名 計38名

3 主 題 いにしえの心とかたらう 「和歌」 (光村図書 国語3)

## 4 主題について

### (1) 学習材について

「君待つと一万葉・古今・新古今一」は、日本の古典詩歌として古くから日本人に愛されてきた韻文であり、現在と言葉や文化の上で違いがあるものの、それでも変わらない「人の心」を表現している。「人の心」と一口で言ってもその考え方や思いは多岐にわたるが、特に「家族」「恋人」「自然」を愛する心は、古くから日本人の心を打つものであり、現代を生きる我々が忘れかけていることを思い出させてくれるものである。時代を越えて語り継がれてきた和歌は、「五七五七七」の三十一文字という厳選された短い語句の中に詠んだ人の強い思いがこめられている。そのため、「言葉に着目した読み」をした時には、多様な読みが期待できると同時に、「歌人の心が最も伝わる表現はどこか」を議論することで、さらに理解の深化を図れると考えられる。

学習指導要領に掲げられている「歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと(伝国(ア))」を根底に置き、「文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと(読(1)エ)」を大切にしたい。

### (2) 生徒について

積極的に挙手発言をする生徒は数名いるが、自分の考えを述べる場面では、「正解を出そう」とするあまり、慎重になりすぎて発言できない生徒もみられる。描かれている情景から作者の心情や意図を読み取るのは、全般的に苦手な生徒が多く、「故郷」の授業では、その課題を克服できるような学習をしてきた。その力を他の学習材でも継続して活用し、確実な定着を図ることが必要である。

その一方で、表現活動では、指導者の示したモデルを参考にして積極的に表現しようと心がけ、「どうすればレポート作成におけるモデルのような表現ができるのか」を分析し、質問してくる生徒が多い。また、モデル以上の工夫が凝らされた作品を作った生徒や、友だちのよいところを取り入れようとする生徒も多い。俳句の鑑賞文を作成する授業でも、先に完成した生徒の作品を、参考にして、より工夫された作品を作ったり、さらに手を加えてよりよい作品に仕上げようとしてきた姿勢がみられた。自分を高めるために人の意見を参考にし、より工夫を凝らす力をつけようとする生徒が増えてきている。しかし、下位の生徒の中には自分で表現することが難しく、他の生徒の意見を取り入れる力が不十分なために、支援の必要な生徒もいる。

### (3) 指導について

1学期に行った俳句の鑑賞文作成では、作る上でやりがいを感じた生徒が多かった。その力を生かして「和歌を読み味わい、鑑賞文を作成するために必要な力をつける」という見通しや目的をもたせたい。その上で、生徒の「俳句の時につけた表現力を生かしたい」「俳句の時よりよい鑑賞文を作成したい」という意欲を高め、鑑賞力がついたことを生徒が実感できる授業になるように心がけたい。この場合の「和歌の読み取りの力」は、「古語の習得」や「古文独特の表現技法の理解」にとらわれるのではなく、「なぜ自分の心に響いてくるのか、その根拠となる言葉をとらえ、歌人のどんな心が強調されているかを考える力」とする。生徒の「鑑賞文を書く意欲」を大切に、学習過程の中で「大切なのは言葉から歌人の心情を考えることである」ととらえさせ、その力をつけることに意欲をもたせたい。また、生徒たちの「他者から学ぼうとする力」を生かすため、3つのテーマそれぞれの場面で、同じ和歌を選択し解説を書いた生徒同士でのかかわり合いの場面を設定し、より自分の意見を深めさせたい。

5 指導計画（6時間）

《観点》＝《関：国語への関心・意欲・態度 読：読む能力 伝国：伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項》

到達目標		
国語への関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
<p>関① 和歌の内容や表現の仕方に注意しながら作者の心情を読み取ろうとしている。</p> <p>関② 和歌の世界観に自分の境遇や思想を照らし合わせながら考えを深めようとしている。</p>	<p>読① 昔の人のものの見方や考え方をとらえ、自分の好きな和歌を選んで鑑賞文にまとめることができる。（読（1）エ）</p> <p>読② 和歌の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して心情を考えることができる。（読（1）ア）</p>	<p>伝国① 和歌の歴史的背景に注意して読み、その世界に親しむことができる。（伝国ア（ア））</p> <p>伝国② 鑑賞文にまとめるときに、和歌の一節を引用している。（伝国ア（イ））</p>
学習内容と具体的評価規準		
学習内容と時数	B：おおむね満足できると判断される状況	A：十分満足できると判断される状況
<p>【和歌】</p> <p>(1) 1／6</p> <p>授業のオリエンテーションを行い、「好きな和歌一首の鑑賞文をまとめる」ことを確認し、和歌の世界観の概説を学ぶ。</p>	<p>和歌の世界に興味を持ち、和歌の作られた時代背景について知ろうとしている。（関）</p> <p>例示された和歌から、和歌の効果的な表現をとらえている。（読）</p> <p>和歌の時代背景を注意して読み取っている。（伝国）</p>	<p>Bに加え、「和歌の鑑賞文をまとめる」という課題に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>Bに加え、効果的な表現から、歌人の心情を深く考えている。</p> <p>Bに加え、その世界に親しんだ感想をもっている。</p>
<p>(2) 2／6～4／6（4/6本時）</p> <p>1時間ごとにテーマに沿った和歌一首の解説を聞き、選択した和歌の解説をまとめる。</p> <p>テーマ①「家族・別れの歌」</p> <p>テーマ②「景色の歌」</p> <p>テーマ③「恋の歌」</p>	<p>好きな和歌を選び、解説をまとめようとしている。（関）</p> <p>好きな和歌の効果的な表現をとらえ、歌人の心情を考えている。（読）</p> <p>解説文に和歌の一節を引用して紹介している。（伝国）</p>	<p>Bに加え、よりよい解説の言葉を選ぼうとしている。</p> <p>Bに加え、効果的な表現から、歌人の心情を深く考えている。</p> <p>Bに加え、選んだ和歌の歴史的背景も紹介している。</p>
<p>(3) 5／6・6／6</p> <p>前時までにとまとめた和歌のうち一首を選び、鑑賞文を完成させる。</p>	<p>表現を工夫した鑑賞文にまとめようとしている。（関）</p> <p>鑑賞文にまとめる際に、とらえた効果的な表現を内容に表している。（読）</p> <p>鑑賞文にまとめる際に、和歌の一節を引用し、そこに込められた歌人の思いを紹介している。（伝国）</p>	<p>Bに加え、他の生徒の鑑賞文を評価し、参考にしようとしている。</p> <p>Bに加え、作者のものの見方や考え方を表している。</p> <p>Bに加え、その和歌の作られた歴史的背景、世界観を紹介している。</p>

## 6 本時について

### (1) 到達目標

【「国語への関心・意欲・態度」に関する目標】

- ・「恋の歌」について、好きな和歌を選び、解説をまとめようとしている。

【「読む能力」に関する目標】

- ・「恋の歌」について、好きな和歌の効果的な表現をとらえ、歌人の心情を考えることができる。

(読(1)ア)

【「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する目標】

- ・「恋の歌」について、解説文に和歌の一節を引用して紹介できる。

(伝国(ア)ア・イ)

### (2) 評価方法

規 準 観 点	A=十分満足できると判断される状況とその例	B=おおむね満足できると判断される状況とその例	C=努力を要すると判断される状況の生徒への指導の手立てとその例
関	Bに加え、よりよい解説の言葉を選ぼうとしている。 ○モデルにとらわれない、独自の視点で書いている。	自分の好きな和歌を選び、解説をまとめようとしている。 ○モデルに則り、書き方をまねて解説文を書いている。	和歌を選択する視点を示し、個々に記述方法を指導する。 ○前時までのアドバイスを沿って書き方を指導する。
評価手段：学習意欲。学習状況。学習シートの記述内容。			
読	Bに加え、効果的な表現から、歌人の心情を深く考えている。 ○かなわぬ恋の苦しさやせつなさにふれて書いている。	恋する気持ちが心に響いてくる効果的な表現から、心情を考えている。 ○『玉の緒よ絶えなば絶えね』には、恋する心が表れている」と書いている。	全員に配布するプリントやヒントカードをもとに、注目すべき記述をとらえさせる。 ○プリントのヒントになる部分を示し、どういうことかを考えるように促す。
評価手段：学習シートの記述内容。定期テストの解答内容。			
伝 国	Bに加え、選んだ和歌の作者の人物像や歴史的背景も紹介している。 ○前時までに紹介した和歌の歴史的背景を活用し、本時の解説の中に取り入れている。	解説文に和歌の一節を引用して紹介している。 ○注目すべき和歌の一節を引用して記述している。	机間指導の際、学習シートへの記述がない生徒に、注目すべき一節に気づくように導く。 ○プリント中の特にヒントになる部分を指示し、どういうことかを考えるように促す。
評価手段：学習シートの記述内容。定期テストの解答内容。			

### (3) 授業構想（研究内容との関連）

#### ア 学習課題の設定理由

「目標と指導と評価の一本化」を念頭にして、主題の到達目標「和歌の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して歌人の心情を考えることができる。」から、本時の到達目標を『「恋の歌」について、好きな和歌の効果的な表現をとらえ、歌人の心情を考えることができる。』と設定した。この到達目標で取り組む授業は「家族・別れの歌」「景色の歌」「恋の歌」の3つのテーマでそれぞれ1時間ずつ行う。本時は、その3つ目のテーマ「恋の歌」で取り組むので、学習課題を「心に響いた恋心の表現から、歌人の心情を考えよう。」とした。教科書では「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」と歌集別に紹介されている和歌を、テーマ別に分類することで、和歌が様々な思いで詠まれていることを意識させるとともに、課題を明確にさせたいと考えた。

#### イ 見通しのもとせ方（予想・方法選択・モデル理解等）

俳句を学習した時に習得した「鑑賞文を書く力」を活用して「和歌の鑑賞文を作成する」ことを授業の最終形にすることを意識させることで、「前回よりよい鑑賞文を作成する」意欲を喚起させる。その中で「和歌の鑑賞文を作成するには、歌人の心情を効果的に表す表現をもとにして、

深く考えることが大切である」ととらえさせたい。3つのテーマそれぞれでモデルを作成し、その中で「自分が感銘を受けた和歌から思いが伝わる表現を探す方法」を説明し、自分の力で自分の好きな和歌の効果的な表現を読み取ることに挑戦させる。本時の「恋の歌」は「家族・別れの歌」「景色の歌」に続く3回目の読み取りであり、前の2回の読み取りで積み上げてきた学習を土台としてより自分の力で味わえるようになってきたことを実感させたい。

ウ 個々の課題追究の場面

テーマごとに数首の和歌を選択課題として示し、各自に「特に感銘を受けた和歌はどの歌か」を選択させ、その解説をモデルに則って考えさせる。教科書の語釈や参考とするワークシートをもとに、自分の力で解説をまとめる時間をとる。テーマ別に同様の課題に3回挑戦する中で、上位生徒は「よりよい表現にするために、どうまとめるべきか」、下位生徒には「前の2回の他の生徒とのかかわり合いの中で参考になった表現はどこか」を考えさせ、自分自身の中で力がついていくことを実感させるように心がける。

エ 能動的なかわり合い

個々の課題追究の場面の後、各自のまとめた解説をもとに、同じ和歌を選択した生徒同士でかわり合う場面を設定する。お互いの意見を交換し合う中で、他の生徒の「自分とは違う表現に着目した点」や「同じ表現に着目しながらも、心情のとらえ方に違いが生じた点」、「同じ表現から同様の心情のとらえ方をしながらも文のまとめ方に違いが生じた点」をとらえさせ、優れていると感じたところを取り入れていくように促す。本時は3回目なので、前の2回のかかわり合いの中で積み重ねてきた「他者から学ぼうとする力」をもとにお互いの優れたとらえ方に気付かせたい。

オ まとめの仕方

選択課題の数首の和歌のそれぞれに取り組んだ生徒に「どのように解説をまとめたか」「他の生徒のかかわり合いからどのようなことを感じたか」を発表させ、「効果的な表現から歌人の心情をより深く考えることができる。」ととらえさせたい。さらに、前の2回のテーマ学習よりもまとめ方が向上していることを実感させたい。

カ 自己評価の仕方

ワークシートに自己評価を書く欄を設け、しっかりと記述させたい。また、他の生徒の意見を参考にする場面も設けるので、よいところを認め合うことも1つの自己評価と考え、参考になった部分も積極的に記すように指導したい。

(4) 展開

段階	学習過程	学習活動	
	★生徒個々の意識や能動性	生徒の活動 (○主発問等 ●具体的な活動)	・指導上の留意点 【教材教具、資料等】 ◆評価
導   入	1 振り返り ★克服したい ★向上したい ★何に役立つのか ★なぜ学ぶのか	1 共通学習課題を再確認する。 ① 昔の人のものの見方や考え方を捉え、自分の好きな和歌を選んで鑑賞文にまとめることができる。 ② 和歌の中の効果的な表現をとらえ、歌人の心情をより深く考えることができる。	・「家族・別れ」「景色」をテーマとして、表現に着目して読み取ってきたことを確認する。 ・最終的には「鑑賞文にまとめる」ことを確認する。 【ワークシート】
	2 見直し確認 ★何を学ぶのか ★何ができればいいのか ★何を評価されるのか ★どんな1時間の流れなのか	2 学習の流れと評価方法を確認する。 ○モデルとなる和歌と選択する和歌を詠み、今回のテーマが「恋」であることを確認する。	・解説を書きこむシート (既に「家族・別れの歌」と「景色の歌」の解説を自分で書き込み、指導者の助言も書き込んである。) ・選択する「恋の歌」の参考シート。(輪読する。)
	3 課題把握	3 本時の学習課題を確認する。	

5分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>学習課題</b>          心に響いた恋心の表現から、歌人の心情を考えよう。       </div>		【紙板書】
	4 予想 方法選択 モデル理解 ★どのようにやればできるのか	4 モデルとする和歌を紹介する。 「君がため惜しからざりし命さへ長くもがなと思ひけるかな」 ○この歌の最も注目すべき表現はどの部分だろう。	・すでに「家族・別れの歌」「景色の歌」でモデル学習をしているので、ここは考え方の確認をするだけにとどめ、今回に限り、「モデル」を後で示すことを伝える。
展 開	5 個々の課題追究 ★自力でとらえたい ★自力で解決したい	5 学習課題に対する答えを熟考する。 ●和歌の紹介プリントから和歌を一つ選び、和歌の表現を考える。	◆関：「自分の好きな和歌を選び、解説をまとめようとしている」 ・机間指導で進行状況を確認する。
	6 能動的なかわり合い ★考えを認められたい ★考えを確かめたい ★考えを高めたい ★他の考えを学びたい	6 目的をもち、考えを交流する。 ●お互いの意見を見合う。 ●交流をもとに、解説文の修正をする。	◆読：「恋する気持ちが心に響いてくる効果的な表現から、心情を考えている」
35分	7 課題解決 ★達成感 ★自信	7 課題を解決する。 ●それぞれの和歌について解説を発表する。	・特に着目した表現について発表させ、聞く側にもその部分に注目するように指導する。 ・指導者による助言が必要な場面で、助言を加えていく。
終 末	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>まとめ</b>          和歌には、相手を思う気持ちが、たった三十一文字で表現されている。その思いをこめた表現から心情を読み味わうことができる。       </div>		
	9 自己評価 ★何ができたのか ★何ができないのか	9 自己評価する。 ●この時間で学んだことは何かをワークシートの欄に記述式で書きこむ。	・自己評価だけでなく、感銘を受けた他の生徒の記述も紹介するように指導する。
10分	10 次時予告 ★向上心 ★学習意欲	10 次時の学習予定を聞く。 ●次の時間から鑑賞文の清書に入ることを指示し、心構えをつくる。	